

大塚山のヤッコ草及び石塔

■ヤッコ草

学名 *Mitrastemon yamamotoi* Mak. ヤッコ草科の一年生植物で、椎の木の根元に群生する高さ 7cm ほどの寄生植物です。四国・九州・沖縄の限られた地域に見られる珍しい植物で、東市来町湯田のヤッコ草発生地は、国の天然記念物に指定されています。11 月頃に白い花をつけ、その形が奴（ヤッコ）の姿に似ていることからヤッコ草の名がついたといわれています。明治 13 年、田代安定氏によって大隅半島の田代郷で発見されたのが最初で、明治 41 年、植物学者牧野富太郎博士が高知県で発見し、正式に発表しました。種子島では、昭和 42 年頃発見され、全国でも有数の生息地となっています。



ヤッコ草

■大塚様の石塔

大塚山の中央に五輪の石塔が3基建立されています。口碑によると、応仁3年(1469)島主時氏が律宗を法華宗へ改宗したとき、島間の地頭大塚氏はそれに従わなかったため、竹のこぎりによる首切りの刑に処されました。その悲惨な最期をとげた大塚氏の御霊を供養するために石塔が建てられたとされています。8月13日に大塚山・大久留目屋敷で慰霊の祭が行われていましたが、現在は大久保自治公民館で行われています。



大塚様の石塔



慰霊祭の様子